

鑑賞弱者に笑顔届けたい！

軽トラ吟遊劇場

軽四トラックの荷台がステージに早変わり。日頃からホールや劇場とのアクセスが困難な地域や境遇の方々に、フットワーク軽く演劇・音楽・映画などを出前いたします。今回はプレステージとして3篇の朗読公演を上演いたします。

会場 9月14日(土)・15日(日) 西中島町遊園地 / 16日(月祝) 東中島町遊園地

「わが町」ものがたり抄・京橋編 『ひよ吉とお梅さん』

9月14日(土) 14時 / 15日(日) 14時 40分

「作」大塚利昭 「演出」風早孝将(鳥游会)

「出演」彰山れいこ、阿部七菜子、小川陽子、金池兼広、藪坂悋

「わが町」ものがたり抄・京橋編 『京橋と表具師幸吉』

9月15日(日) 14時 / 16日(月祝) 14時 40分

「作」秋山基夫 「演出」吉野緋桜 「出演」彰山れいこ、阿部七菜子、小川陽子、金池兼広、藪坂悋

宮本常一への旅 『瀬戸の早乙女たち』

9月14日(土) 14時 40分 / 16日(月祝) 14時

「作」宮本常一 「演出・出演」友國淳子



風早孝将

岡山市出身。NPO法人アートファームの創造事業である演劇ユニット水蜜塔に参加し、「MORAL」「12月34日」などで演出や脚本を手掛ける。また、ブルーラルシアタープロジェクト「王女A」などに出演のほか、演劇on岡山の「月の鏡に映る聲」で岡山・台湾公演に参加。その後、鳥游会(おこかい)を立ち上げ、「夏の思い出」やL O O P @との共同事業「八月、鳩は還るか」を演出。コロナと仕事による休止期間を経て現在に至る。

吉野緋桜

1988年劇団ひびき入団。翌年『嘘・夢・花の物語』で初舞台。『きょうりの花』『あなたがわかったと言うまで』等の十余作品に出演。2007年『月光の夏』(作:毛利恒之)で初演出。以後、劇団公演の殆どを演出する。おもな演出作品『熱海殺人事件』(作:つかこうへい)『僕たちの好きだった革命』(作:鴻上尚史)『日暮町風土記』(作:永井愛)『そして、六度目の始まり』(作:桂木秀雨)。2022年吉野緋桜名義に変更。2023年末劇団ひびき退団。現在フリーで活動中。

友國淳子

30代半ばより演劇をはじめ、地方劇団で一人芝居などの公演を行う。2012年アートファーム主催の「犬島 海の劇場」の移動演劇「宮本常一への旅」地球4周分の歌』に出演し、宮本常一の作品に感銘を受ける。現在は、演劇ユニットにおいて演出、脚本も手がける。出演作品:映画「ずぶぬれて犬ころ」、ドラマ「八墓村」、コマーシャル「岡山ダイハツ」など。

旭座イリュージョン

親子で楽しむ大道芸サーカス

明治10年に岡山初の芝居小屋・旭座が西中島に開場し、その舞台から120年の歴史を誇る木下サーカスが始まります。先達の偉業にリスペクトして3名の大道芸アーティストが妙技を披露。親子で楽しめるプログラムを用意しました。

日時・会場 9月21日(土) 14時 / 東中島町遊園地 / 22日(日) 14時 / 西中島町遊園地

演目 / 出演

「フラフィー」HOOPER MAEP

「クラウン」サクノキ

「バルーンアート」たっしー

(写真上から) HOOPER MAEP サクノキ たっしー



HOOPER MAEP/前田瞳

笑顔がはじけるファニーでキュートなフープショー!

関西パフォーマンス大会2023、たかつき大道芸グランプリ2023など大会優勝の実績を持ち、全国の大道芸フェスティバルやラスベガスの大会出場のほか、学校公演やメディアにも多数出演。全身から繰り出されるユニークな技と、多数のフープを扱う華やかなパフォーマンスが特徴です。唯一無二なMAEPのパフォーマンスをぜひ体感してください。

サクノキ

日常ヒ人を愛するクラウン

帽子やホウキなど身近なモノを使った芸は凄じょうどこか可笑しい。お客さんも巻き込み、確かな技術と不確かなドラマで展開される温かくも刺激的、一期一会のサクノキ劇場をお楽しみください。2010年にNPO法人沢入国際サーカス学校卒業。同時期に東京都公認ヘブアンアーティストライセンスを取得。大道芸フェスティバルや商業施設、舞台公演等、国内外で活動中。

たっしー

バルーンアーティスト

岡山県出身・在住。中国地方を中心に全国各地で活動するバルーンアートのプロフェッショナル。ショッピングモール、企業イベント、幼稚園、店頭など、さまざまな場所でバルーンプレゼントを行うグリーティングやバルーンショー、バルーン教室など多彩なパフォーマンスを展開している。魅力的で楽しいバルーンアートの世界を体験してください。

フィールドワーク今昔道遙

尾上松之助とまち歩き

翌2025年に没後100年、翌々2026年に生誕150年。

西中島町に生まれ日本映画草創期の大スターとして活躍した尾上松之助の歴史がエポックな節目を迎えます。そのプレ企画として、尾上松之助と岡山市街の足跡を訪ね歩くフィールドワークを開催します。

集合・出発 9月23日(月祝) 14時 西中島町公会堂 ※解散も同じ場所となります

まち歩きのナビゲーターには昨年、岡山河畔芸術祭の活弁無声映画上映会で講師をしていただいた世良利和氏に務めていただきます。世良氏の案内で西中島町、京橋町、表町などへ回遊見聞してまいります。



世良利和

1957年鳥根県大社町生まれ。福山大学専任講師等を経て、映画・アニメ批評や映画史の研究に取り組み、新聞や雑誌に数多くの評論・エッセーなどを連載。主な著作に『その映画に基はない』、『沖繩劇映画大全』、『まあ映画な、岡山じゃあ①～③』(いしいひさいち共著)などがある。法政大学沖繩文化研究所研究員、岡山理科大学兼任講師。博士(芸術学)。

尾上松之助

映画俳優。本名中村鶴三。岡山市生まれ。歌舞伎(かぶき)俳優を志し、若いころより舞台に立ったが、巡業先で映画監督牧野省三にみいだされ、映画俳優となる。1909年(明治42)『墓盛忠信(ごぼんただのぶ)』に初出演。以来、忍術映画や豪傑物、また侠客(きょうかく)物などに主演を演じ、身の軽さから大立ち回りなどにうまみをみせ、たちまちアイドル・スターとなる。大きな目をむいての大見得が独自の魅力となり、「目玉の松ちゃん」の愛称で親しまれ、サイレント期の時期、代劇映画に活躍した。出演作品数が1000本を超えるという記録をもち、日本映画俳優史には欠かせぬ人物である。代表作に『豪傑児雷也(じらいや)』(1921)、『荒木又右衛門(またえもん)』(1925)、『忠臣蔵』(1926)などがある。